

# 屋根の雪下ろしによる事故の防止

屋根の雪下ろしによる事故が全道的に多発しています。

冬期における道内の人的被害  
(消防庁調べ)

○平成23年度：死者31名、負傷者463名

○平成24年度：死者33名、負傷者482名

## ●屋根からの転落による死者41%

- ・安全帯・命綱とヘルメット、すべりにくい靴(厚底は避ける)を着用しよう！
- 命綱は使う前によく点検！
- ・スノーダンプは小回りのきくものを使おう！

## ●屋根からの落雪による死者17%

- ・新雪や晴れの日雪のゆるみに注意！
- ・携帯電話を持って！
- ・家族、隣近所に声をかけてから！

## ●除雪機に巻き込まれた死者5%

- ・雪詰まりの処理はエンジンを切ってから！

## ●屋根からの転落事故の32%は、はしごから

- ・はしごは必ず固定！
- ・はしごから屋根への移動時は特に注意！

## ●転落死者のうち51%が地面に強打

- ・建物の周りに雪を残して雪降ろし！

## ●転落死者のうち60%が1階の屋根から

- ・低い屋根でも油断しない！

## ●除雪作業中の発作により死者8%

- ・疲労時は作業しない！

# 命を守る除雪中の事故防止10箇条

- ① 作業は家族、隣近所にも声かけて2人以上で！
- ② 建物の周りに雪を残して雪下ろし！
- ③ 晴れの日ほど要注意。屋根の雪がゆるんでる！
- ④ はしごの固定を忘れずに！
- ⑤ エンジンを切ってから！除雪機の雪詰まりの取り除き
- ⑥ 低い屋根でも油断は禁物！
- ⑦ 作業開始直後と疲れたころは特に慎重に！
- ⑧ 面倒でも命綱とヘルメットを！
- ⑨ 命綱、除雪機など用具はこまめに手入れ・点検を！
- ⑩ 作業のときには携帯電話を持っていく！

# 吹きだまりの基礎知識



(写真：道路上にできた大きな吹きだまり)

## ●道路の形状と吹きだまりの関係

道路には、周りの土地よりも高い盛土道路と、低い切土道路とがあります。図は石狩市内の実験施設で観測した盛土道路と切土道路の吹きだまりの形です。

一般に、盛土道路と比べて切土道路では、吹きだまりが発達しやすい傾向にあります。**切土道路では吹きだまりに注意して運転しましょう。**



## ●吹きだまりでの車両の発進限界

道路に深い吹きだまりができた場合、車両の走行が困難になることがあります。図は吹きだまりの深さと、車両の発進の可否について調べた実験の様様です。

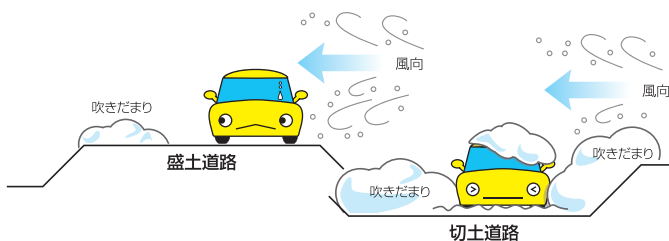
実験の結果、吹きだまりの深さが15cmの場合には発進できましたが、20cmでは殆ど進むことができませんでした。**吹きだまりに注意し、無理のない運転を心がけましょう。**



## ●停車中に車両の周りにできる吹きだまり

吹雪による視界不良や、吹きだまりによる走行困難のため、吹雪の中で停車する場合があります。下の図は、停車中の車両の周りにできる吹きだまりを表したものです。

実験の結果、盛土道路では車両の風下側の車線に、切土道路では車両周辺に吹きだまりができました。**停車中の車両の周りは、吹きだまりが発達しやすいため、注意してください。**



## ●停車中は排気ガスに注意！

吹雪で停止した車両の周りの吹きだまりが発達し、排気管やフロントグリルに達する場合があります。排気ガスには、人体に有害な一酸化炭素が含まれ、車内に流入すると人体に危険が生じる恐れがあります。

# 雪に埋もれた車の中は危険です



### 原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。



### 一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。



### エンジンをかけるときは

防寒等でやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう



### 窓を開けていても絶対に安全とは言えません

風向きや窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。



(独立行政法人 土木研究所寒地土木研究所HPより)